園　　長　　通　　信

ちぐさこども園 園長　櫛渕 洋介 2023.12.22　Vol.26

**《ちぐさ、60回目の誕生日》**

　2023年(令和5年)12月10日、おかげさまで、ちぐさこども園は創立60周年を迎えることができました。

　2日前の金曜日には、父母の会本部の皆様の企画・協力により、子ども達全員とちぐさの60歳の誕生日を祝う誕生会が催されました。全年齢の子ども一人一人の手が加わったプレゼントがあったり、年長児が尽力して作ったケーキや横断幕が飾られたりして、とても嬉しいひと時となりました。

　また、当日の12月10日には、ベラ・ヴィータにて、法人関係者や歴代の役員の方々等に現職員を加えた約100人をお招きして、「ちぐさ 60年の集い」を開催いたしました。これまで、そして現在も、ちぐさを支えて下さっている皆様が一同に会して、ちぐさを話題に盛り上がる楽しい会となりました。

**《“ちぐさ”は“千草”からはじまった》**

　ちぐさこども園の“ちぐさ”は、元々、1945年(昭和20年)の戦後すぐに始まった、千草洋裁学院の“千草”をひらがな表記したものです。

　“千”とは「いろいろ」を、“草”は「たくましさ」を意味しており、多様性を尊重しながら個人が自立して生きる現代社会にも通じるような気がしています。

その名前を冠して、1963年(昭和38年)12月10日に、ちぐさ幼稚園は開園しました。洋裁学院等で当時の地域の高校生年代教育の一端を担っていた初代園長(包)夫妻が、その実体験から「高校生からでは遅い」と幼児年代からの教育の重要性に思い至って幼稚園を開くことになったと聞いています。

　そして、高度成長期とともに園舎増築等を重ねていく昭和時代を経て、平成に入り2000年代になると、地域の社会ニーズの変化に応じて、ちぐさ学童クラブやちぐさ保育園を併設してまいりました。

　さらには、2016年(平成28年)の新園舎改築のタイミングで、それまでのちぐさ幼稚園とちぐさ保育園を統合して、「ちぐさこども園」となって、現在に至ります。

**《ちぐさの卒園生は約6,000名！》**

　60年の歴史を通して、ちぐさを卒園した子どもの総数は、幼稚園を中心に約6,000名になります。私自

身もその一人ですが、6,000通りもの人生模様の初めに関われたことを嬉しく思うのと同時に、6,000×２のお父さん、お母さん、×４のおじいちゃん、おばあちゃん等、多くの皆様のご支援・ご協力があったことに心から感謝申し上げます。

　先の集いでも、「子どもが…」「孫が…」と世代を超えて繋がっていく、ちぐさの縁を感じて、その重みと幸せを改めて実感いたしました。

**《今日の子どもとともに、明日へ》**

　私がこの原稿を書いていると相談室に「ちょっと、かくれさせて！」とニコニコして飛び込んできたKくん。部屋を出ると、前日と微妙違うお面をつけて、「ほら」と自慢げに見せてくるSくん。絵本コーナーで、服を半分脱いだ状態で、どっちがお化けに見えるか競っているYちゃんとUちゃん。

　園では今日も、一人一人の子どもがそれぞれに自分らしく遊んでいます。そんな彼らがたくましく創っていく未来を信じて、これからも子ども達と保護者の皆さんと大切な日々を重ねていきたいと思っています。

61年目もどうぞよろしくお願いいたします。

【２学期トピックス】

●60周年記念品を頂きました。

・父母の会とちぐさ会から、絵画（”play in the woods”牛嶋直子作）を頂きました。本作は４年前にアーティストの牛嶋さんが本園で滞在制作されたもので、優しくて神秘的な惹き込まれる作品です。

正面玄関から入ってホールに向かう壁に大きく飾ってあるので、どうぞご覧ください。

・現役職員から、紙芝居と絵本十数点一式の寄贈がありました。これからの時代も大切にしていきたい児童文化財を通して、子ども達の生活をより豊かにしていきたいと思っています。

●父母の会より、玩具を特別寄贈

　コロナによる事業中止で使われたなかった予算を子ども達に還元するため、厳選された輸入玩具あ(グラパット)を頂きました。子ども達の遊びが広がるのが楽しみです。